

## 実験廃液回収の留意事項

1. 廃液の搬出には 10L ポリ容器, 20L ポリ容器 (G 分類以外の廃液) または金属缶 (有機系廃液) を使用してください。
  - ・「G 分類 可燃性有機廃液 I」に該当する廃液を貯留・搬出する際は、消防法に則り、10L ポリ容器または 60L までの金属缶を使用する必要があります。
  - ・有機系廃液については金属腐食の恐れのない廃液の搬出に使用済み金属缶 (一斗缶等) の利用を推奨しております。
  - ・無機系廃液については、20 L ポリ容器または 10L ポリ容器をご使用ください。
  - ・廃液は容器の容積の 90%未満に留めてください。
  - ・劣化・破損、適正なフタ (内ブタ、パッキン含む) の欠如した容器は回収致しません。容器やフタの劣化・破損がないことを確認してください。
  - ・容器のフタにゴム栓やガムテープ等を代用しないでください。
  - ・ガラス瓶は輸送中に破損する恐れがあるので使用しないでください。
  - ・金属缶を使用する場合は酸の混入等による金属腐食がないこと、気化したガスの充満による膨張等による破損の恐れがないことを事前に確認してください。
  - ・**回収された容器は返却されません。**

2. 搬出する全てのポリ容器には必要事項を記入した「廃液処理依頼票」 (全学統一のステッカー) を貼付してください。
  - ・依頼票が不足する場合は各部局の環境安全委員または担当事務にご連絡下さい。
  - ・依頼票には記入例\*を参考に正確な情報を記入してください。
  - ・輸送中に容器からはがれたり記載内容が判読できなくなる恐れがあるので依頼票のコピー (紙印刷) は使用しないでください。
  - ・二重貼付を避けるため、過去の依頼票は容器からはがすか×印等をつけ無効にしてください。

鹿児島大学		部局名	
<b>廃液処理依頼票</b>			
分類記号		内容物の明細 (化学物質名または化学式とその濃度を記入)	
量	リットル		
pH	B1アブ系廃液にB1.1.1の系系有機廃液の混合に記入		
学科・専攻名		研究室名	
排出者名		電話番号	

### G, H, I 分類廃液容器への「火気厳禁」表示について

- ・消防法上の「第四類引火性液体」に該当する G (可燃性有機廃液 I), H (可燃性有機廃液 II), I (廃油) 分類の廃液は容器に「火気厳禁」表示する必要があります。
- ・火気厳禁が印字された引火性廃液専用の依頼票も用意されています。詳しくは各部局担当者または環境安全センターにお問い合わせください。

鹿児島大学		部局名	
<b>廃液処理依頼票</b>			
分類記号		内容物の明細 (化学物質名または化学式とその濃度を記入)	
量	リットル		
pH			
学科・専攻名		研究室名	
排出者名		電話番号	

3. 重金属、有機塩素化合物、硝酸、亜硝酸、アンモニアなどの有害物質を含んでいない酸、アルカリの廃液はできるだけ各研究室で中和して流して下さい。

- ・中和処理後の廃液を放流する際には pH 試験紙等で中性であることを確認し、希釈しながら流してください。

4. 無機水銀廃液は絶対に重金属廃液に混入しないよう分別を徹底して下さい。

無機水銀廃液は水溶液のみ対象です。金属水銀は絶対に入れないでください。（実際に金属水銀が混入し、業者から指摘された事例がありました。このような事例が続くと大学の信用にもかかわりますし、新たな費用の発生も考えられます。くれぐれもご注意ください。もしも、誤って金属水銀が混入した場合は、下記担当まで事前にご相談ください。）

5. 廃液回収当日は事前に案内される回収場所に時間に余裕をもって搬出して下さい。

- ・廃液搬出時には回収に立ち会っている各部局の環境安全委員、担当事務または環境安全センター教員に研究室名と廃液数量をお知らせください。

（事前の廃液処理申込数量に比べて、実際に搬出された廃液量が極端に多い場合は受け入れられない場合があります。）

#### \* 廃液処理依頼票の記入例

依頼票の記載内容をもとに処理工場で中身の廃液が処理されます。記入漏れや不正確な情報により、適正な処理ができなかったり、予期せぬ事故が発生する可能性があります。

以下の記入例を参考に正確な情報を記入してください。

N分類 培地廃液の場合は、「内容物の詳細」に必ず「培地」と記入してください。

(1)無機系廃液および、ハロゲン系、ホルマリン系、難燃性有機、シアン系廃液の記入例

鹿児島大学		部局名	
廃液処理依頼票		理	
分類記号	F	内容物の明細 (化学物質名または化学式とその濃度を記入)	
量	18 リットル 容器容量の90%未満まで Bシアン系廃液とH.J.Lの含水有機廃液の場合に記入	0.1M Na <sub>2</sub> HAsO <sub>4</sub> 0.3L 4M HNO <sub>3</sub> 1.5L 0.5M (NH <sub>4</sub> )MoO <sub>4</sub> 1.5L 4M NaOH 0.1L 水 14.6L	
pH		化学物質名(化学式) とその濃度を明示	
学科・専攻名	〇〇学科	研究室名	△△研究室
排出者名	廃液の内容物について把握しているスタッフの名前	電話番号	排出者の電話番号

## (2)可燃性有機 I および可燃性有機 II、廃油の記入例

鹿児島大学 <b>廃液処理依頼票</b>		部局名 <b>理</b>	
分類記号	<b>G</b> <b>火気厳禁</b>	内容物の明細 (化学物質名または化学式とその濃度を記入)	
量	<b>9</b> リットル 容器容量の90%未満まで	90% メタノール 8L 水 1L	
pH		化学物質名(化学式)とその濃度を明示	
学科・専攻名	<b>〇〇学科</b>	研究室名	<b>△△研究室</b>
排出者名	廃液の内容物について把握しているスタッフの名前	電話番号	排出者の電話番号

## (3)培地廃液の記入例

鹿児島大学 <b>廃液処理依頼票</b>		部局名 <b>理</b>	
分類記号	<b>N</b>	内容物の明細 (化学物質名または化学式とその濃度を記入)	
量	<b>5</b> リットル 容器容量の90%未満まで	硝酸塩添加培地	
pH	Bシアン系廃液とH.J.Lの含水有機廃液の場合に記入	「培地」と明示する 添加されている化学物質名 (化学式)を明示	
学科・専攻名	<b>〇〇学科</b>	研究室名	<b>△△研究室</b>
排出者名	廃液の内容物について把握しているスタッフの名前	電話番号	排出者の電話番号

疑問点等ありましたら、環境安全センターにお問い合わせください。ご協力をよろしくお願い致します。

環境安全センター

TEL : 099-285-8126

E-mail : [haieki@gm.kagoshima-u.ac.jp](mailto:haieki@gm.kagoshima-u.ac.jp)